



## 東北学院大で説明会開く

建設関連業イメージアップ促進協

国土交通省と建設コンサルタンツ、測量、地質調査の各建設関係団体でつくる「建設関連業イメージアップ促進協議会」は18日、宮城県多賀城市の東北学院大学多賀城キャンパスで工学部環境建設工学科の学生を対象に建設関連業の説明会を開いた。写真。3年生約130人が参加し、各団体の担当者がインフラ整備における関連業の役割と魅力を伝えた。同協議会による

東北での説明会開催は初めて。

説明会のテーマは「建設関連業の役割と実務」。国交省土地・建設産業局建設市場整備課の麓博史企画専門官は、道路事業を例に、計画から工事・維持管理までの流れを説明。建設関連業は「国や自治体など発注者が求める内容を調査・計画・立案・設計して建設業者に図面を引き渡す『頭脳プロ集団』で、技術者は大学や専門学校での高度な教育を修了することが基本となる」と述べた。

全国測量設計業協会連合会の横溝和則技術委員（朝

日航洋）は位置情報や地理情報など今後の成長分野を紹介し、「測量の仕事は目立たないが、社会への貢献度は高い」と話した。

全国地質調査業協会連合会の山本聡専務理事は防災や維持管理、環境、エネルギーなど地質調査業の新たな領域を説明。建設コンサルタンツ協会の鈴木英之委員（建設技術研究所）は河川や都市、交通、建築関係の具体的な業務の事例を挙げ、最後に建設コンサルタンツは「未来をつくる仕事」とPRした。

若手技術者の経験談なども紹介され、06年にオリエンタルコンサルタンツに入社した内藤靖さんが社内での業務や日常生活、資格取得に向けた自身の行動を紹介した。